

# 教化センターだより

## No. 404

発行日 2021年2月1日  
発行 真宗大谷派大阪教区  
教化センター  
TEL 06-6251-0745  
FAX 06-4708-3278

### ◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



〈発行〉中公文庫

## 『虹色のトロツキー』（全8巻）

〔著者〕安彦良和

日本人以外の他民族を認めようとしなない今日の日本人の病は何も今に始まったことではない。だから、安彦氏の『虹色のトロツキー』は、満州（現中国東北部）という地であつて日本人と多民族の関係を描くことで、歴史的な、また今日的な日本のあり方を考えさせる好個の漫画なのである。

（『第3巻』あとがきより引用）



〈発行〉双葉社

## 『この世界の片隅に』（上・中・下）

〔著者〕こうの史代

呉市は今も昔も、勇ましさとたおやかさを併せ持つ不思議な都市です。わたしにとっては、母の故郷です。わたしに繋がる人々が呉で何を願い、失い、敗戦を迎え、その二三年後にわたしと出会ったのかは、その幾人かが亡くなってしまった今となっては確かめようもありません。だからこの作品は解釈の一つにすぎません。ただ出会えたかれらの朗らかで穏やかな「生」の「記憶」を抛り所に、描き続けました。

（『下巻』あとがきより引用）



〈発行〉汐文社

## 『はだしのゲン』（全10巻）

〔著者〕中沢啓治

「はだしのゲン」は、どんな境遇にもくじけることのない、ゲンという少年を主人公にしているだけに、戦中・戦後の悲惨さがより痛切なものとして感じられる。戦争体験、とくに被爆体験の苦しさを戦争を知らない世代に語りかけるのは大変むずかしい問題だ。しかし、むずかしいからといってあきらめるわけにはゆかない。「はだしのゲン」はその意味でひとつの役割をはたしている。

（『第1巻』あとがきより引用）

— 教化リーフレットの

「活用」について —

4枚の「教化リーフレット」

は、各寺院・教会において「寺報」

や個別に複写しての配布、同朋

会や團法会での教材として活

用いただければ幸いです。

— 3月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のよび」……小松 肇

「いずれの行にても、

生死をはなること

あるべからざる」

リーフレット②

「今月のよび」……山雄達磨

『万善自力跋勤修

円満徳号勸専称』

リーフレット③

「もしもし相談」……稲垣直来

『育児への不安で

子どもの誕生を喜べない』

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」

『ライオンとイノシシ』

（敬称略）

# いずれの

ぎよう  
行にても、

しやうじ  
生死を

はなるること

あるべからざる

『歎異抄』  
たんしやう

第三章より

上記の標語は、どのような修行でも、生死から離れられない我が身の事実を語っています。

ここでの「生死」とは、単に生き死にのことではなく、迷いの世界、流転のすがたを表す言葉です。仏道を歩む目的は正にこの迷いの世界、流転のすがたを越えることです。しかし私たちは迷いの世界を越えるどころか、迷っていることに気が付けません。どうして私たちは迷っていることにすら気付けないのでしょうか。

最後の糸を出し終えた蚕は外部から完全に遮断され孤立してしまいます。

私たちも蚕と同じです。私一人が正しいという思いや自身への執着心がいつの間にか私をがんじがらめに縛り上げ、自分の思いにこり固まった状態で世間を分別します。そんな姿に気付かない、あるいは領けない私たちは苦悩の原因を私の外に求め、さらに迷いを深めて苦しむのです。

蚕のように自らを縛り上げ孤独にさせている原因が私自身の中にあるのだと目覚めさせるはたらきこそが念仏です。本願の仏道によってこそ生死を越える道が私たちに開かれるのではないでしょう。

(小松 肇)

万善自力 貶勤  
円満徳号 勧専称

万善の自力、勤修を貶す。  
円満の徳号、専称を勧む。

たい。生き甲斐を見つけない！」と願わずには、いられないのではないでしようか。少々乱暴ですが、これを「自力の菩提心」と呼びます。

（ここには「貶（けなす）」という大胆な表現があります。貶されているのは「自力の菩提心」つまり仏道を歩む志願、あるいは善いことを成したという思いです。私たちが気がついたらこの世に生を受け、ふとした縁で「自分の生命には限りがある」と痛感します。それは、大切な方との死別かもしれないし、コロナ禍の影響かもしれないし、戦争の時「人生を悔いなく生き

心の奥底から出てくる大切な欲求と言うこともできます。しかし、自分で頑張ろうとするこの思いには「大きな落とし穴がありますよ」と道綽禪師が警告されるのです。道綽禪師は、動乱の時代を過ごされました。生まれ代も国も侵略され、仏道さえも一時、国によって奪われたのです。ふとZエスの連続テレビ小説「エール」の一場面を思い出します。戦争中、主人公である

作曲家は「世のため人ために」と、真面目に一所懸命に、生き甲斐を持って、国威発揚の歌を作ります。

しかし、敗戦となり、自分が送り出した少年が帰らぬ人となった時、主人公は自分がしてきた善いことの正体を思い知らされます。

何より、若者が自分の歌で出兵を決意する姿に感動していた自身のあさましさを思い知るので

す。どうでしょう、正義を掲げない戦争はあるでしようか。いえ、日々の生活も変わりません。皆、それぞれ立場で、いわばやり甲斐を持って、善いことをしているのではないでしようか。

自分で善悪の物差しを作ることを自力といいます。この落とし穴のなんと危険なことか。

これに気がつかせてくださるのが、円満の功德を持つお念仏なのです。阿弥陀如来は「本当にそれで大丈夫なのか。自己中心の、自己満足に陥ってはいないか」とたえず私の闇に問いかけてくださるのです。

この阿弥陀如来のおはたらきに南無と頭を下げ、お念仏を称える意外に私の生きる道はないと、道綽禪師は教えてくださるのです。

（山雄 達磨）

今月のことば出典 『正信偈』

『真宗聖典』

206頁

『真宗大谷派 勤行集』（赤本）

## もしもし相談



育児への不安で  
子どもの誕生を  
喜べない

## 問

この春、念願だった子どもが生まれました。幸せを感じる反面、夫婦共働きということもあり、育児に不安があります。

育児疲れが原因の虐待などがニュースでよく取り上げられています。自分もそうなってしまうたらどうしようかと悩んでいます。

(31歳・女性)

## 答

仏教では誕生  
児を仏子と言  
い、仏が誕生した  
お祝いします。仏である理由が三つあります。

一つは無邪気であること  
です。損得勘定しないと

いう事です。次は利他であること。他者を笑顔にさせるという事です。そして私が笑顔にさせたという自負心が無いことです。

その事を思つて赤ちゃん  
と向き合つてみますと、  
良い親であろうがなから  
うが、損だ得だと言いま  
せん。またどんな人であ  
ってもすべてを受け入れ  
る真っ白なその存在は、  
他者を無条件で笑顔にし  
ます。そこには私が笑顔  
にしてあげたという気負  
いは微塵もありません。  
よくよく真向かうと思  
議な存在です。仏としか  
言いようがありません。  
そして仏子に照らされ  
て思うことは、私達は悲  
しいかな損得でしか物事

を見れない邪気だらけで、  
自利(自分の利益しか考  
えられない)しかなく、  
自負心によって一喜一憂し  
喧嘩し合っているのが現  
実ではないでしょうか。

そのような者が突然仏  
子の親として歩みを始め  
るとするのは大変な事だ  
です。悩まない方が不思議  
です。ですからどれだけ  
理想の子育てを模索して  
みても、自利の私達の思  
いはことごとく打ち砕か  
れることでしょう。

ご質問には、共働きに  
よる育児や虐待が不安と  
あります。どのような環  
境であっても不安のない  
人はいません。ある方が  
「子育ては子育て」「だと言  
われました。仏でない私  
達に出来ることはたかが

知れています。だからこ  
そ同じように不安の中を  
助け合つて歩んでこられ  
た先輩方の力や言葉をお  
借りして、少し休みなが  
ら自己と見つめ合う時間  
を持つて下さいと言われ  
ました。一生懸命になり  
過ぎて、自分の声も、赤  
ちゃんの声も聞こえなくな  
ってしまったては元も子も  
ありません。

苦しくて辛くて孤独な  
時もあるかと思いますが、  
必ず生まれてきてくれて  
有難う、親に成らせてく  
れて有難うと心から思え  
る日が来るので、たくさ  
んの方に助けてもらいな  
がら仏子と共に歩んで下  
さい。

(稲垣 直来)

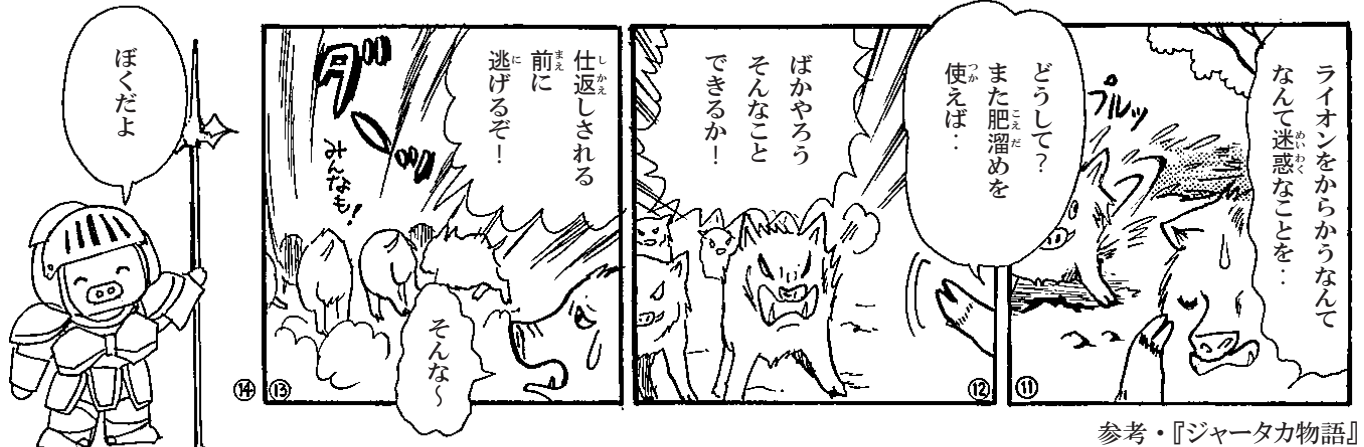
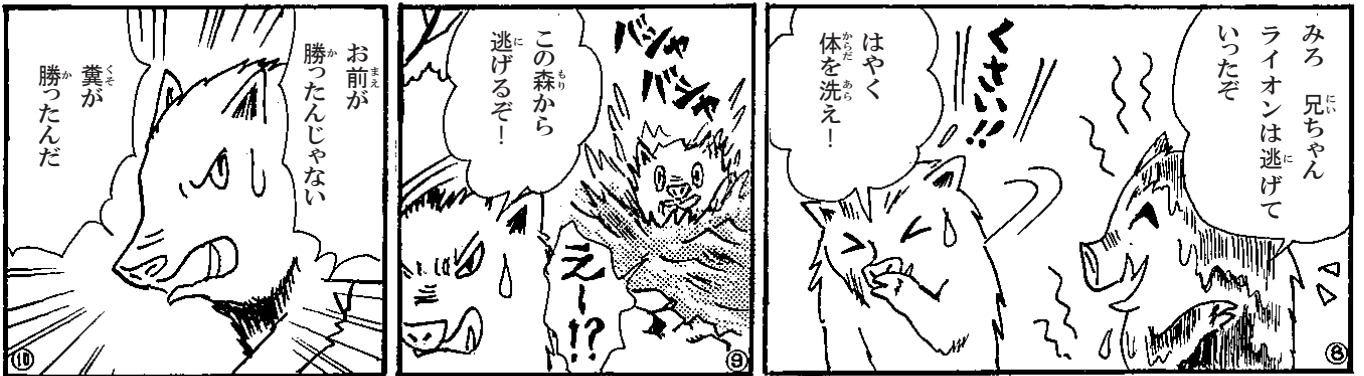
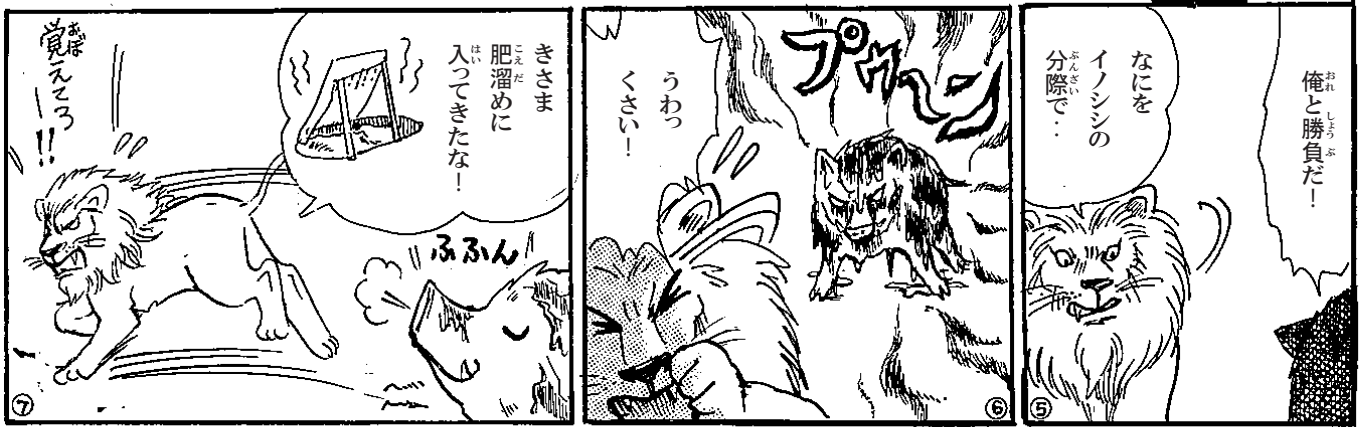
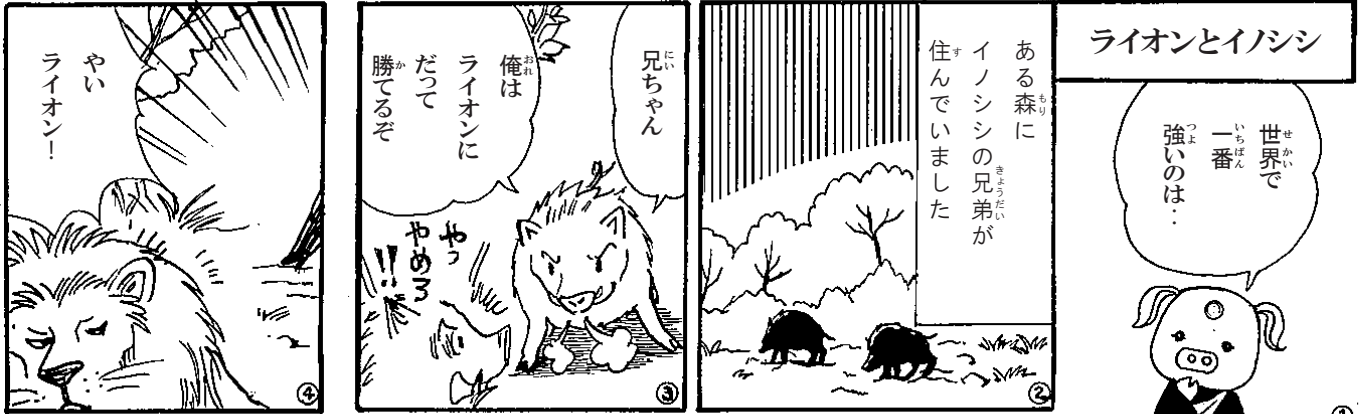


# 仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (188)

## ライオンとイノシシ



参考・『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編547話からなっています。多くの經典の中に引用されて、經典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ 153)